

# 皮膚ボディーイメージ評価尺度 Cutaneous Body Image Scale(CBIS) 日本語版の作成

東京女子医科大学附属女性生涯健康センター

檜垣 祐子

Cutaneous body image is defined as the individuals' mental perception of the appearance of their skin, hair, and nails. The concept of cutaneous body image is an important psychodermatological element both in skin diseases that can affect the patients' appearance and in body dysmorphic disorders. To measure individuals' cutaneous body image, practical and accurate instrument is necessary. In this study, we translated into Japanese, Cutaneous Body Image scale, 7-item instrument originally created by Gupta et al. using forward- and back-translation method. Six bilingual persons whose primary language was Japanese translated the instrument into Japanese and produced a unique translation by consensus. Two bilingual persons whose primary language was English carried out back-translations of the first Japanese version. The original Canadian author of the instrument reviewed both of the first back-translations. Four doubtful items required a second back-translation to reach satisfactory agreement with the original instrument. The Japanese version was pre-tested in a pilot group composed of Japanese adults with and without skin diseases and revealed to be comprehensive and have no problematic item for adaptation to Japanese culture. In conclusion, we have developed a semantically equivalent translation of Cutaneous Body Image scale into Japanese. The instrument seemed to be practical and useful to measure cutaneous body image of Japanese dermatological patients, though further evaluation of the measurement property is necessary.

## 1 緒言

皮膚は心理状態の影響を受けて変化し、羞恥で顔が赤くなる、恐怖のために蒼白になるなど、情動を表現する器官である。また同時に他人の眼に触れることから、コミュニケーションに影響を与え、反対に何らかのアピールの心理が皮膚を場として表現されることがある。すなわち皮膚は、対人的、社会的コミュニケーションの媒体として重要な役割を果たし、皮膚の外見に関わる問題は周囲との人間関係にさまざまな影響を及ぼしている。

自分自身の体や外見についての内部からの見方をボディーイメージという。ボディーイメージは誰にでもある身近な自己の感覚で、一定のものではなく、個人個人で、また個人の中でも様々な要因によって変動する。誰でも自分の顔を直接見ることが出来ないように、自分自身の体は他の人の体のように見ることが出来ないため、ボディーイメージの形成には自分自身の知覚に加えて、感情や思考が影響する。さらにボディーイメージは対人関係や社会生活と関連し、相互に影響しあう。従ってボディーイメージはかなり多面的な要素からなる複雑な概念といえる<sup>1)</sup>。

このボディーイメージの形成に皮膚は重要な役割を果たす。

ボディーイメージの評価には、妥当性が評価された自記式尺度を用いて、その回答を解析するのが一般的であり、欧米ではいくつかの評価尺度が考案されている。皮膚に関係する尺度としては、Multidimensional Body-Self Relations Questionnaire<sup>2)</sup>などが、主として形成外科手術患者を対象として考案されてはいるが、皮膚疾患患者や一般人には適合しにくい上、煩雑で回答者の負担が大きい。このような背景から、Guptaらが2004年に皮膚のボディーイメージの評価尺度 Cutaneous body Image Scale (CBIS) を考案し、一般人を対象に計量心理学的検討を行い、その妥当性を確認した<sup>3)</sup>。CBIS (図1) は皮膚全体、顔の皮膚、毛髪、爪の外見についての7項目の質問からなり、回答者は項目ごとに0:全くあてはまらない、から、9:非常に良くあてはまる、までの10段階の数字を選択する。項目数が少なく比較的簡便な尺度で、回答者の負担が軽い。

我が国では対象者のボディーイメージを適確に評価する、実用的かつ国際的に通用する尺度はこれまで全く開発されていない。そこで今回はこのCBISについて、原作者の許可を得て、言葉の同義性が保たれた日本語版を作成し、皮膚疾患患者や一般人のボディーイメージについて検討した。



The Japanese version of Cutaneous Body Image Scale

Yuko Higaki

Institute of Women's Health, Tokyo Women's Medical University

1. I like the overall appearance of my skin
2. I like my complexion or overall color of my skin
3. I like the appearance of the skin of my face
4. I like the complexion or the overall color of the skin of my face
5. I am very satisfied with my hair
6. I am satisfied with the appearance of my fingernails
7. I am satisfied with the appearance of my toenails

図1 Cutaneous Body Image Scale (Gupta)<sup>3)</sup> の各項目

このような英語版の尺度を翻訳するには、文化的背景の違いなどが問題になる可能性があるものの、新たに日本語版ボディイメージ評価尺度を作成する場合に比べて、時間、労力、費用が軽減できる利点がある。しかも国際的に通用しうる標準化された尺度が作成できるため、海外のデータともそのまま比較検討することが可能となる。

## 2 方法

### 2・1 CBIS 日本語版への翻訳

CBIS 日本語版への翻訳は forward-back translation 法により行う (図 2)。なお日本語版作成に関し、すでに 2005 年 2 月に原作者である Gupta 氏の許可を得ている。

順翻訳は日本語を母国語とする医療関係者、非医療関係者計 6 名が、各々英語版から日本語版への翻訳を行う。6 つの日本語版を作成したのち、討議のうえ 1 つの順翻訳版にまとめる。次に英語を母国語とする逆翻訳者 2 名により、それぞれ逆翻訳を作成し、2 つの逆翻訳について、英語版との言葉の同義性を原作者に照合する。問題のある箇所については、順翻訳、逆翻訳を繰り返し、言葉の同義性が保たれた CBIS 日本語版 (暫定版) を作成する。

### 2・2 Feasibility study

作成した日本語版 (暫定版) について、一般人、皮膚疾患患者各々 5 名に回答してもらい、不明確な表現や文化的に問題のある項目があれば、再度順翻訳、逆翻訳を繰り返し、問題点を修正する。

### 2・3 計量心理学的検討

得られた日本語版 (暫定版) について、一般人および皮膚疾患患者を対象として、計量心理学的検討を行い、尺度の妥当性を確認する。

#### 2・3・1 対象

東京女子医科大学附属女性生涯健康センターまたは東京女子医科大学皮膚科外来を受診した皮膚疾患患者を対象とする。調査にあたっては、回答者にプライバシーが侵害されたり、患者が受ける今後の治療に不利益が生じたりすることは一切ないことを説明の上、承諾を得ることとする。

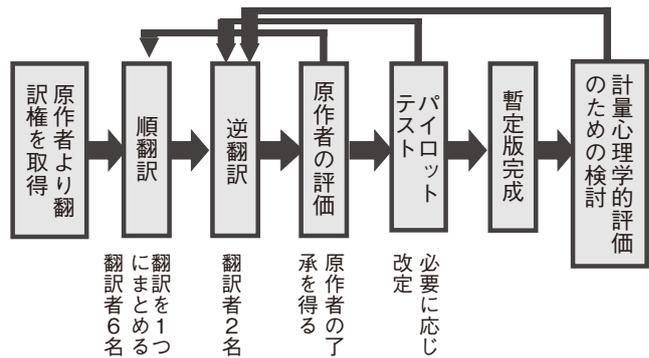


図 2 Cutaneous Body Image Scale (CBIS) 日本語版作成手順

なお本研究は東京女子医科大学倫理委員会承認を受けたものである (受付番号: 964)。

患者の付添い人など皮膚疾患のない、一般人についても調査する。

#### 2・3・2 方法

Gupta の原作についての計量心理学的検討<sup>3)</sup> により行う。

信頼性 (reliability) については、対象者に Cutaneous Body Image Scale (CBIS) を施行し、Cronbach  $\alpha$  (internal consistency) を計算する。

構造妥当性 (construct validity) については得られた CBIS スコア (7 項目の平均得点、低いほどボディイメージはネガティブ) につき、以下の仮説を検証する。

①年齢と逆相関 ②男性 > 女性 ③結婚、教育の違いによる差がない。

統計解析には SPSS11.5J を用いる。

## 3 結果

### 3・1 CBIS 日本語版への翻訳

言葉の同義性に関して問題になった部分は表 1 に示した。項目 1 は順翻訳の外見「全体」という言葉が、逆翻訳者 A の 1 回目の逆翻訳で反映されなかったため、その点を修正し、2 回目の逆翻訳では general という語を加えて、原作者の了承を得た。項目 2、4 も同様であった。

項目 5 は大変満足の大変という言葉が逆翻訳者 A の 1 回目の逆翻訳で反映されず、2 回目に very を加えて、こ

表 1 CBIS の原作および言葉の同義性が問題となった逆翻訳

原作	逆翻訳(第 1 回)	同義性の評価*
1 I like the overall appearance of my skin.	I like the appearance of my skin.	b
	I like the overall appearance of my skin.	a
2 I like my complexion or overall color of my skin.	I like the color or complexion of my skin.	b
	I like the overall color, or complexion, of my skin.	a
4 I like the complexion or the overall color of the skin of my face.	I like the color or complexion of my facial skin.	b
	I like the overall color, or complexion, of the skin on my face.	a
5 I am very satisfied with my hair.	I am satisfied with my hair.	b
	I am very satisfied with my hair.	a

\*同義性の評価:a,問題なし; b,問題あり

1. 皮膚の外見全体が気に入っている
2. 皮膚の色全体または色つやが気に入っている
3. 顔の皮膚の外見が気に入っている
4. 顔の皮膚の色全体または色つやが気に入っている
5. 自分の髪に大変満足している
6. 手の爪の外見に満足している
7. 足の爪の外見に満足している

図3 CBIS日本語版（暫定版）の各項目

©Yuko Higaki 2007 禁無断転載

れも原作者の了承を得た。

これらの作業を経て、CBIS 日本語版（暫定版）（図3）を作成した。

### 3・2 Feasibility study

作成した日本語版（暫定版）について、一般人、皮膚疾患患者各々5名の回答から回答の指示文中の「外見」がわかりにくいとのことで、「外見（見た目）」と修正した。質問項目自体の表現には問題はなかった。

### 3・3 CBIS 日本語版の計量心理学的検討

現在まで、皮膚疾患患者および一般人各々150人以上から回答を得ており、解析作業中である。このうちすでに解析した患者群50人に限定した結果を以下に述べる。

50人の年齢は16歳から75歳、平均40歳で、性別は女性37人、男性13人であった。婚姻状況は、未婚24人、既婚21人、その他5人であった。最終学歴については、便宜的に30歳以上（31人）に限定し、大学18人、それ以外（中学、高校、専門学校）13人で比較した。

Chronbach  $\alpha$  係数は0.84と高い信頼性が示唆された。CBISスコアは全体で3.33、女性は3.03、男性は4.16と、女性の方が低かった（ $p < 0.05$ ）。CBISスコアと年齢との間には統計学的に有意な相関は見られなかった。婚姻状況とCBISスコアとの関連は、未婚者が3.23、既婚者が3.41で両者間に統計学的な有意差はなかった。最終学歴については大学卒3.63、それ以外3.98で、両者間に統計学的な有意差はなかった。

## 4 考察

皮膚に関するボディイメージは「自分自身の皮膚、毛髪、爪の外見についての内部からの見方」である。実際にボディイメージが問題になるのは、大きく分けて、2つの場合が考えられる。第一には多くの皮膚疾患や外傷、熱傷など実際に外見の変化を伴う場合、患者は否定的なボディイメージを持ちやすく、その改善は治療のアウトカムの一つとして重要である。第二には自分の外見に嫌悪感や不満を持っているが、他者から見ればそれに相当する問題が無い場合がある。これはボディイメージのゆがみが特

徴となる病態で身体醜形障害がこれに相当する。身体醜形障害は、米国では軽度のもも含めれば形成外科、美容外科、皮膚科受診者の6 - 15%に達するともいわれており、これらの患者のボディイメージを評価し、そのゆがみを把握しておくことは日常診療上、また治療上有益と思われる。

しかしながら、これまで外見の変化を伴う皮膚疾患におけるボディイメージの検討はほとんどなく、わずかに乾癬について、患者が否定的なボディイメージを抱えていることが、QOLの評価尺度を用いた研究として報告されているに過ぎない<sup>4)</sup>。この理由のひとつには、ボディイメージの概念そのものが複雑であるために、皮膚のボディイメージを簡便かつ適切に評価する尺度がなかったことが上げられる。

今回著者らは、言葉の同義性を保たれた日本語版CBISを作成した。英語版の尺度を文化的背景の異なる日本語に翻訳する場合、いろいろな困難が付きまとう。翻訳に関するガイドラインは主に英語から他のヨーロッパの言語への翻訳を対象にしているため、尺度の中に仮に日本の文化になじまない項目があれば変更や削除を余儀なくされる可能性があるからである。幸いにして今回の翻訳作業では大きな困難はなく、言葉の同義性を保った日本語版CBISを作成することができた。作成した日本語版CBISはfeasibility study、現在も進行中の計量心理学的検討を通し、文化への適合性について特に問題は生じていない。

CBIS日本語版の妥当性が十分確認された場合、その活用法としては、まず外見の変化を伴う皮膚疾患について、患者のボディイメージへの影響を把握し、その改善をめざした治療を選択するための手段のひとつとなると思われる。また治療アウトカムの指標の1つとしてボディイメージの評価を行う際に用いることができる。さらにボディイメージの障害が中心的な問題となる身体醜形障害では、その症状の評価、治療の指標としてCBISを用いると思われる。またCBISは広く一般人も対象となるため、化粧などの心理的効果の評価にも利用できるのではないかと予想される。

このようにCBISは皮膚のボディイメージをめぐるさまざまな課題に広く用いることができ、その有用性が高いことが予想され、皮膚のボディイメージ研究に大きく役立つものと考えている。

### (引用文献)

- 1) 加茂登志子、醜形恐怖とリハビリメイク、かづきれいこ、田上順次編：デンタル・メディカルスタッフのためのリハビリメイク入門、第1版、医歯薬出版、東京、2004、93-98頁
- 2) Cash TF.:MBSRQ Users' Manual. 3rd rev. Available

at:www.body-image.com

3) Gupta MA, Gupta AK, Johnson AM: Cutaneous body image: Empirical validation of a dermatology construct, J Invest Dermatol., 2004; 123: 405-406

4) De Korte J, Sprangers MAG, Mommers FMC, et al.:Quality of life in patients with psoriasis: A systematic literature review, J Invest Dermatol Sympo Proc 2004; 9: 140-147